

市場動向

■USD/TWD



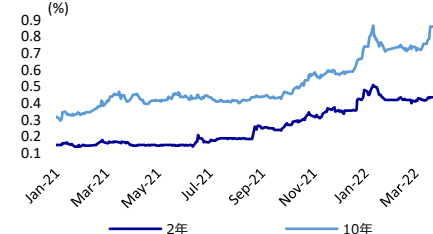
■JPY/TWD



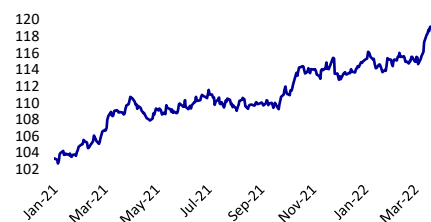
■USD/CNH



■台湾国債利回り



■USD/JPY



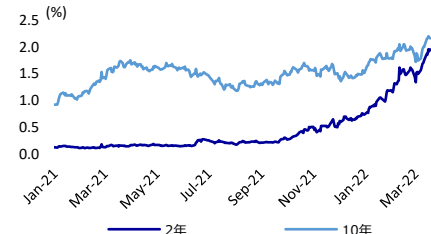
■EUR/USD



■台湾加権指数



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは金融政策の影響で乱高下。週初3/14は28.450でオープン後、中国でのコロナ感染拡大を受け、生産拠点閉鎖の思惑が広がり、外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり、ドル台湾ドルは一時28.534まで上昇。3/15は米金利が上昇するとドル買いが優勢となり、28.632まで上昇。3/16はFOMCの発表を控える中、引き続き外国人投資家の台湾ドル売りからじりじりと上昇し、28.678をタッチ。3/17は前日にFOMCで予想通りの利上げが行われたことで、米国金融政策の方向性が明確に示され不透明感が払拭されたことで、世界的に株価が上昇。台湾株も大幅に上昇する中、外国人投資家が台湾ドル買いに転じたことで、終始台湾ドル高の流れに。午前中に28.50を割り込み、午後に入っても台湾ドル買いが優勢な状況は続き、一時28.424まで低下したが、3/18は台湾中銀のサプライズ利上げを受け、台湾ドル買いの動きが加速し、ドルは一時28.258まで下落。しかし、台湾株の反発はやや弱いものとなるため、午後に入るとドルを買い戻す動きが強まり、ドル台湾ドルは28.325価格近辺まで回復。最終的に先週比0.3%ドル安台湾ドル高の28.360で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は393.16億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初3/14は117.36でオープン後、ロシアとウクライナ両国の協議の頻度が増えていることから話し合いが進んでいるとの見方にリスク回避の動きが後退し、円売りも強まり、海外市場で2017年1月以来に118円台に乗せた。3/15は米金利の上昇につられ一時118.45まで上昇するもFOMCを控えて118円台前半でもみ合い推移。3/16はFOMCの結果が発表され、予想通りの25bpの利上げを決定。一方、金利見通しでは、年内残り6回会合すべての利上げ、23年以降では2.75%までの利上げを示唆し、長期的な安定水準の2.375%を上回った。これを受け米金利が短中期ゾーンを中心に上昇すると、ドル円も一時119.13まで上昇。3/17は前日のFOMCを受けた流れから一時119.02まで上昇したものの、米金利の上昇が落ち着くとドル円もつられて下落し118円台後半で推移。3/18は日銀は市場予想通りの政策据え置きを決定。黒田総裁は足元の物価上昇の動きは供給サイトによるものが大きく、需要サイドではないという理由で、金融緩和政策を続けることを決めたため、ドル円は119円を乗せた展開。最終的に先週比ドル高円安の119.15で先週の取引を終了。

■USD/TWD 予想レンジ：28.200-28.600

FOMC後、リスク許容度は回復したが、外資による台湾株の買い戻しは限定的となる中、ドルの下落を支えるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：117.50-120.00

米債利回りの長短金利差が急激に縮小することを受け、景気後退に対する懸念が強まり、一方的な円安にはならないと見るものの、足元は堅調な原油価格や上昇気味の日本国債利回りにつられ、ドル円は引き続き高値圏で上下する予想。

今週の予定

3/21 (MON)	東京市場休場、米FRBパウエル議長講演
3/22 (TUE)	
3/23 (WED)	米2月新築住宅販売件数、台湾2月鉱工業生産
3/24 (THU)	日銀金融政策決定会合議事要旨、米2月耐久財受注、台湾2月失業率
3/25 (FRI)	米3月ミシガン大学消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。